

2026 WORLD ROWING CHAMPIONSHIPS

REPORT 5 (8/28)

8月28日(金)

この日は、M1x(櫻間 達也 選手(NTT東日本))の準々決勝(Quarterfinal)が行われました。レースの80分前ほどに、気象条件を考慮し前ラウンドの順位に基づいたレーンの再割り当てが行われたアナウンスがあり、レーンが変更となりましたが、落ち着いて準備をして岸を蹴っていきました。



M1x 準々決勝(Quarterfinal)

レーンの再割り当てにより、前ラウンドの順位順に1レーンから配置されたこのレース。スタートでフランス、クロアチアが飛び出し、ルーマニア、ハンガリー、アメリカが追い日本がさらに続く展開でレースが始まった。日本は少し出られているものの、レースに良く付いて行っている。主導権を握るハイペースにより少しずつ差が開くものの、準決勝(Semifinal)進出ラインをしっかりと射程圏内に入れている。500mの通過は、1位フランス、2位アメリカ、3位ハンガリー、4位ルーマニア、5位クロアチア、6位日本と最下位での通過だが、1位フランスと2.69秒差、準決勝進出(Semifinal)ラインの3位ハンガリーとは2.09秒差と息をのむ展開。第2クォーター、先行するフランス、アメリカ、ハンガリー、ルーマニアとの差が少しずつ開き始める。5位を走るクロアチアがスタートの勢いが鈍ってきたところに日本が並びかけ1000mを通過、1000mでは、1位フランス、2位アメリカ、3位ハンガリーと続くがハンガリーとの差を4位ルーマニアがかなり詰めている。5位にはクロアチアに900mで並びかけた日本が浮上する。3位ハンガリーとの差は5.77秒差と、まだ巻き返せる位置にいる。

第3クォーター、日本は必死に前を追うが、1位と2位、3位と4位も激しく競り合いながらペースを上げ、苦しい展開になってくる。また、レース展開が1レーンのアメリカが2レーンのフランスをかわし、3レーンのルーマニアが4レーンのハンガリーをかわし、1位から4位までがレーン順に並ぶ展開となってきた。ラストクォーター、日本は何とか前との差を詰めようと必死にペースを上げるが、惜しくも届かず5位でゴール。タイム順でFinal Dに進むことになった。

手前の1レーンから、アメリカ、フランス、ルーマニア、ハンガリーと続き、一番奥がM1x櫻間選手(NTT東日本)。





ゴール前、クロアチアを抑え力漕するM1x櫻間選手(NTT東日本:写真奥)

8月29日(土)スケジュール



日本時間 17:10 (現地時間 10:10)

M1x Final D

櫻間 達也 選手(NTT東日本)

- 1 イラク
- 2 クロアチア
- 3 日本
- 4 カナダ
- 5 スペイン
- 6 ウズベキスタン

2026年世界選手権日本代表チーム最後のレースとなります。
ご声援よろしくお願い申し上げます。